

# <発達に応じた保育>

## 2.発達に応じた保育

### ・乳児

①保育者(母親との愛着確立)

②感覚器(視覚・聴覚・臭覚・味覚・触覚)による外界の認知 五感

③人間らしい感情表現、言語によるコミュニケーション、歩行による習熟

### ・1歳以上3歳未満児

=1歳児頃=

①言葉による確認(身近になるものの名前を急速に覚える)

②自立への意欲(なんでもやりたがる)

③大人の動作や音声を模倣する能力の発達

## <発達に応じた保育>

=2歳児頃～後半=

- ①身辺処理の自立(トイレトレーニング)
- ②他者への関心(友達との関わり…噛む、叩く、からかう、親切に)
- ③話し言葉の取得による会話の成立
- ④人間の木あらゆる感情の芽生えが出そう  
(愛情、不安、恐怖、嫉妬、羞恥、誇り、正義感、怒りなど)  
→感情の不安定さと自我意識の芽生えによる感情の揺れが激しい時期  
イヤイヤ期  
※大人の優しい見守りと、賢明で寛容なかかわりが必要な時期  
※知的理解や集団の中での他社の影響を受けて、自立に向かっていく  
→友達の姿を見て、行動する(良いも悪いも)

## <保育者の役割>

- ・子どもの様子を、しっかりと把握する  
予測→行動→結果の確認を
- ・0歳児  
食育…美味しく作って美味しく食べさせる のむ→かむへの変化  
丁寧に根気強く対応し、食が進むような雰囲気づくりを  
睡眠と生活のリズム…あせらず、繰り返し、繰り返し、愛情をもって接する  
快の生活を保障する(養護の面で)
- 遊び…保育者が相手になって、十分遊びの楽しさや会話を楽しむ  
表情豊かに、言葉と動作をむずびつけて、楽しいお話を心がける

・1歳児

食育・・・子どもと一緒に食事をする

美味しそうに、ゆっくり、和やかに、楽しい雰囲気の中で心をなげる

遊び・・・歩き回る、歩く、はだしで遊ぶ、砂利道を歩く、

階段やがけを上り下りをする バランスがとれるように(体幹)

言葉・・・同じ歌を笑顔で歌うことで、表情が豊かになり、～の、～に、と部分的に声を出すようになる

安全・・・1歳児は、事故多発年齢といわれている 十分に気を付けて

・2歳児

食育・・・自分でやりたがる

\* 偏食・・・1歳児過ぎるころから2～3歳児頃に一番多く、後は減少していく  
料理仕方や味付けに工夫を 無理に進めない

生活・・・時間がかかっても、自分で繰り返し行うことで、じょうずにできるようになる

公共の場でのエチケットやルール等、大人が言葉に出して一緒になってやってみせると、のちの理解に結びつく

言葉・・・自分の好奇心、探求心を言葉を通して理解したい時期

子どもの気持ちを感じ取り、共感しながら感受性を豊かに表現していく

・3歳以上児

- ①生活に必要な基本的な習慣や態度を身につけることの大切さを理解し、適切な行動を選択できるように配慮する。
- ②子どもの情緒が安定し、自己を十分に発揮して活動をするを通して、やり遂げる喜びや自信を持つことができよう配慮する。
- ③様々な遊びの中で全身を動かして意欲的に活動することにより、体の諸機能の発達が促されることに留意し、子どもの興味や関心が戸外に向くようにすること。→ テレビゲーム、スマホ依存
- ④けんかなど葛藤を経験しながら、次第に相手の気持ちを理解し、相互に必要な存在であることを実感できるよう配慮すること。

- ⑤生活や遊びを通して、決まりがあることの大切さに気づき、自ら判断して行動できるように配慮すること。
- ⑥自然とのふれあいにより、子どもの豊かな感性や認識力、思考力及び表現力が培われることを踏まえ、自然との関りを深めることが出来るように工夫すること。
- ⑦自分の気持ちや経験を自分なりの言葉で表現することの大切さに留意し、子どもが仲間と伝えあったり、話し合うことの楽しさが味わえるようにすること。
- ⑧感じたことや思ったこと、想像したことなどを、様々な方法で創意工夫をこらして自由に表現できるよう、保育に必要な素材や用具をはじめ、様々な環境の設定に留意すること。
- ⑨保育所の保育が、小学校以降の生活や学習の基礎の育成につながることに留意し、幼児期にふさわしい生活を通して、創造的な思考や主体的な生活態度などの基礎を培うようにすること。